



■自分の会社を作りたい!! —最終選考に勝ち残った生徒たちの熱いプレゼンテーション

# 高校1年生が開業資金 100万円獲得

最優秀賞に宇都宮高・中道さんの「株式会社 Cyber Academy」



次代を担う若者に夢を与え、起業を通して自ら考え行動する力を養ってもらうことを目的に「第3回 とちぎアントレプレナー・コンテスト」が実施されました。今回応募があった事業プランは前回の3倍以上の637件。このうち最終選考に進んだ10グループによるプレゼンテーション審査が2月6日、宇都宮市陽西町の護国会館で実施、自社の事業プランの魅力を審査員にアピールしました。その結果、最優秀賞は中道理仁さん（宇都宮高校1年）の「株式会社 Cyber Academy（サイバー・アカデミー）」が受賞。同月27日、表彰式が同市江野町の下野新聞NEWS CAFEで開催。青木圭太実行委員長（青木製作所代表取締役）から中道さんに開業資金100万円が贈られました。※第3回受賞者の在籍校と学年は2月27日現在です。

[企画制作: 下野新聞社営業局]

教育を楽しく、そして意味のあるものとして伝えていきたい  
サイバー・アカデミー なかみちまさひと  
株式会社 Cyber Academy／代表: 中道 理仁（宇都宮高校1年）

この会社は学生時代の夢を叶える会社です。私はそれほど勉強が好きではありませんでした。なぜなら勉強する意味が分からなかったからです。この会社は最先端のVR（仮想現実）、AR（拡張現実）技術を使い、勉強をそのままにゲームの中であらゆる活躍ができるものです。そのアプリを提供し、「どうしたら勉強が好きになれるか」という全国の学生が抱える悩みを解決します。世界にはちゃんとした教育を受けられていない人が大勢いますが、VR、ARという最先端技術を使えば世界のどこにいても教育が受けられるようになります。それが、この会社を設立しようと思った理由です。

まずは、国内の学生を対象にした事業を立ち上げ、将来は、このモデルを発展させて世界の人たちに教育を届けられるようなシステムをつくりたい。世界は教育を欲しています。私は、その教育を楽しく、そして意味のあるものとして伝えていきたいと思っています。



優秀賞  
(2点)

白楊高校から栃木県を元気にする  
株式会社 ポプラマーケット

代表: 橋本 真梨奈（宇都宮白楊高校3年）

宇都宮白楊高校は農業、工業、商業、家庭など、すべての学科が揃っています。それぞれの学科で学んだ白楊高生の専門性を活かし、地域貢献や学びの実践の場、自らの進路を考える機会を提供していくことを目指した会社です。農産物、食品、服飾など商品の生産から販売、広報宣伝まで生徒が主体で行い、利益の一部は学校施設を充実させる資金に充てます。この会社を設立できた生徒が、あらゆる場面で活躍する産業人となり、会社の理念である「白楊高校から栃木県を元気にする」を実現すると信じています。



特審別奨賞  
(2点)

インターネットなどを利用し、まちづくりに貢献  
SKYINFO 株式会社

代表: フォン・ウェイ・シン（小山工業高専5年）

インターネットやWi-Fi、Bluetoothを利用した情報システムを構築する会社を設立し、人と会社を結びつけ、社会をより発展させるきっかけを目指します。例えば、お店や観光施設のコンピューターとWi-FiやBluetooth機能をつなぎ、自社が開発したアプリをダウンロードしたユーザーの携帯端末に、店舗や観光の案内など関連情報を入ってくる仕組みです。東京オリンピックで、弊社の技術を応用した道案内システムを構築することで訪日客が観光しやすい街をつくります。



奨励賞  
(5点)

待機児童と高齢者を結びつける新しい育児所  
株式会社 やさしいおばあちゃんの家

代表: 田崎 朱里（小山工業高専3年）

待機児童問題の解消をメインとし、加えて高齢者の孤立化問題の解決に貢献することを目的とした会社です。待機児童を持つ親と、時間的に余裕がある、子どもの世話で社会貢献をしたいというおじいちゃん、おばあちゃんを結びつけた新しい形の育児所を提供します。育児保育など既存施設とは違い、預けたい時間に合わせられるようにします。これにより、保護者も利用しやすくなり、高齢者も新たな生きがいを見つかります。空き家を利用して育児所を開設すれば空き家対策にもなります。



審査総評  
(5点)

農村の学童保育で地方の弱みを強みに変える  
SKURA art 株式会社／代表: 山中 裕雅（栃木農業高校3年）

グループメンバー: 奎 秋人（同）、毛塚 大地（同）

経営理念を「地域社会が育てる親」とする学童保育運営会社です。農村部を抱える地方都市がターゲットで、地域の農家や住民にフォスター・アーレント（育ての親）として協力を頼みます。子どもたちは地域の農家で農業作業を体験したり、お年寄りに伝統料理や地域の文化を学びます。待機児童問題やお年寄りの健康増進、農業の高齢化や耕作放棄地の問題、伝統行事の継承など地方が抱える問題を同時に解決することができます。弱みを強みに変えることができるプロジェクトです。



実行委員長あいさつ

最終選考に残った皆さんは、誰もが起業家として社長になる資質を持っています。惜しまれても最優秀賞を逃した方も胸を張って、自信を持っていただきたい。

第1回最優秀賞の小堀詩社長は、自分が設立した食品会社を軸に乗りせよう日々努力しています。過去のコンテスト参加者には海外に渡って起業を目指して頑張っている方もいます。

コンテストを通じて培ってきたアントレプレナー精神を今後、社会に出ても持ち続け、大いに活躍していただきたい。

実行委員長・青木 圭太 氏  
青木製作所 代表取締役



特別賞

最終選考での観覧者投票で決まる「オーディエンス賞」を新設!

一般公開の最終選考会では観覧者にも審査していただき、発表が良かったと思う新会社に投票。投票者にはクオカード（5千円分×4名）が当たる抽選会も実施。

最も得票数の多かったオーディエンス賞には橋本真梨奈さん（宇都宮白楊高校3年）の「株式会社 ポプラマーケット」が受賞。賛助企業を代表して瀧川淳士（足利銀行営業企画部）から橋本さんに副賞3万円が贈られました。

クラウドファンディングでの起案を支援する賞など、特別賞も創設

クラウドファンディングで起案し、全国に自分の事業をPRできるプレスリリース券（3万円相当）が贈られるFAAVO（ファーボ）宇都宮賞（提供: モンキーブルージャパン）は「株式会社 miya flower」が受賞。本県に着目した事業に贈られるボムイノベーション賞（提供: 下野新聞社）は「株式会社ラブペリー」が受賞し、図書券5千円分が贈られました。

第3回 とちぎアントレプレナー・コンテスト参 加者の懇親会（2月27日、下野新聞NEWS CAFE）